



ご家族の理解も大切です

「認知症かな？」と思ったら 早めの受診、サービス利用のご相談を！

とある家族から「最近、おばあちゃんが同じことを何度も聞いてきたり、冷蔵庫に同じものがたくさん買ってあったりするんです」とのご相談がありました。この状態は、認知症の初期症状かもしれません。

その症状は様々ですが、今回は『なんだかおかしいな』と感じる初期の段階での受診と、本人への適切な関わりについてお伝えします。

実は本人が一番、分かっています！

認知症の一般的な症状は「もの忘れ」です。家族が気付く随分前から本人は『なんだかおかしい』と感じていると言われています。しかし、自分から家族に伝えることなく時間が経過し、受診・診断が遅れることがあります。これは平均1年2ヶ月間ある「空白の期間①」(図)と呼ばれています。家族は病院受診を勧めるも、なかなか病院へ行ってもらえず困る期間でもあります。このように早期の受診が進まない要因として「本人が症状を隠してしまう」、周囲が「年のせい」と捉えてしまうことなどが挙げられます。

そこでかかりつけ医から認知症専門病院への受診を勧めてもらったり、「一緒に健康診断へ行きましょう」と誘ったりし、本人への負担感が少ない方法で受診へ繋げてみましょう。

また、ようやく受診して初期の認知症と診断され、治療薬もしっかりと飲んでいても家に閉じこもって何もしない日々が続くという期間があります。それを「空白の期間②」(図)と呼び、平均1年5ヶ月間あると言われています。この期間も長くなることで認知症が進行してしまうことがあります。

閉じこもりを防ぐためにも外に出て人と話す、地域のサロンに出かける、またデイサービスなどの介護保険サービスを利用し、頭も体も動かすことで症状の進行をゆるやかにする効果があります。

おかしいことに気付きながらも「認知症」という診断を受ける怖さ、今後自分がどうなるのかといった不安とも本人は戦っています。また受診したことで一安心するも、一層、今後の生活への心細さが増したり、そして誰かに知られたりする恥ずかしさ、周りに迷惑をかけるのではないかと、といった自分の変化による恐れ、懸念も抱いて暮らしていることがあります。だからこそ家族の認知症への理解が必要な時期であり、本人が抱く心痛に配慮した受診やサービス利用への声かけをお願いしたいものです。

図

認知症の
疑い

認知症の
診断

介護保険など
サービスの利用

現在

空白の期間①
平均1年2ヶ月

空白の期間②
平均1年5ヶ月



【文献】認知症介護研究・研修仙台センター
(2018): 認知症の家族等介護者支援に関する
調査研究事業報告書

Profile

大野きらめき 施設長 坪内 勝俊



大野きらめき

受付時間/
月～土 8:30～17:30
(祝日含む)
TEL.0779-66-1211

高齢者介護
きらめき

ホームページ

